

第2章

ボランティアセンター立ち上げ、 そして始動

あまりにも甚大な被害にたじろぐ暇もなく、災害ボランティアセンター立ち上げに動いた。まずは町内の若者たちが集まった。全国からは多くの支援物資をいただいた。どのようにボランティアセンターが立ち上がっていったのか、その過程をレポートする。

- 2.1 震災前からの取り組み
- 2.2 センター立ち上げを支えた若い力
- 2.3 セツェ浜町ボランティアセンターはこんなところ
- 2.4 ボランティアセンターに対する多くの支援
- 2.5 情報の発信と支援物資の受け入れ・活用

2.1 震災前からの取り組み

2.1.1 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練実施に至るまで

東北地方の太平洋沿岸地域では、30年以内に「宮城県沖大地震」が必ず起こるといわれ、災害に対する備えが必要であるとされてきた。折しも、平成15（2003）年7月26日、宮城県北部連続地震が発生。この地震では、1日のうちに震度6弱以上の地震が3回続けて起き、負傷者649人、建物全壊489棟、半壊1231棟という被害を出した。

この災害への県内各市町村社協の対応を教訓として、平常時からの災害対策、とりわけ被災後の復興活動の拠点ともなるボランティアセンターのスムーズな開設が必要だという認識が高まった。

そこで、宮城県社会福祉協議会を中心に、来るべき「宮城県沖大地震」による被災を想定して、住民の啓蒙活動や広報活動、コーディネーター養成、立ち上げ訓練、研修会等などの必要性が検討された。七ヶ浜町社会福祉協議会でも、積極的に対応を模索し、さまざまな準備活動を展開してきた。

ここでは、東日本大震災発災以前に七ヶ浜町社協が取り組んだ各種の活動を紹介する。

◆研修会の開催

日時	できごと／研修等	備考
(平成15年) 2003.7.26	宮城県北部連続地震発生	
(平成16年) 2004.1.31	<p><研修会> 第1弾 震災フォーラム「災害支援私達に出来ること」 講師：南郷町社協（現美里町）松田局長 動員人数 250名 於）七ヶ浜町中央公民館（大会議室）</p> 	<p>○シンポジスト 赤間長一（七ヶ浜町役場） 南郷町友の会会長 仙台高校 応援部団長 ※高校生の体験談発表では来場者は涙と感動を受けた、また予想以上の参加者に防災や災害への意識の高さが伺われた。</p>
2004.10.23	新潟県中越地震発生	
2004.11	中越沖地震被災地に職員を派遣（10日間）	

2004.11.7	町開催の「ボッケ祭り」にて中越沖地震募金活動 	義援金 約 40 万円集まる。 ※被災地に行くことができない職員で何かできないかと考え、「婦人と暮らしを考える会」さんの協力を得て活動した。
2004.12.16	「大規模災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営に関する覚書」締結	宮城県・七ヶ浜町・社会福祉協議会の3者
2004.12.26	スマトラ沖地震発生	
(平成 17 年) 2005.3.26	<研修会> 第2弾 災害ボランティアセミナー 「災害とは何ぞや、非常時にも強い元気な町を」 於) 七ヶ浜町国際村ホール 	○講師 ハートネット福島代表 吉田公男 氏 動員人数 450名 ※講話のみの90分だったが、災害ボランティアの活動や、震災後の避難所等の話をされた。町防災課の協力を得て、町内の防災関係団体のすべてに呼びかけた。
(平成 18 年) 2006.1.28	<研修会> 第3弾 「忘れるな 99.9% 必ず来るぞ 宮城県沖地震 --映像から学ぶ大規模災害--」 於) 七ヶ浜町国際村ホール  	○講師 レスキューストックヤード代表 栗田暢之 氏 動員人数 450名 ※この時の講演時に栗田代表より「七ヶ浜が有事の時は必ず駆けつけて支援します」と約束してくださいました。震災後すぐに電話にて「七ヶ浜を支援しますが」と言っただき、私たち達は即「お願いします」といいました。この出会いが今のボラセンそして七ヶ浜を支えています。

◆災害ボランティアコーディネーター研修会・住民への啓蒙・広報活動

日時	開催内容	参加者等
(平成 17 年) 2005.7.9	第1回 ボランティアコーディネーター研修会 講師 県社協 北川進 氏 於) あさひ園 (障害者地域活動支援センター)	参加者: 一般町民11名 広報誌にて声掛け
2005.11.9	第2回 ボランティアコーディネーター研修会 講師 県社協 北川進 氏 於) セツ浜町水道事業所	参加者: 登録ボランティア団体 48 名 
(平成 18 年) 2006.9.21	大和町社会福祉協議会(立ち上げ訓練) 於) 大和町中央公民館 ※登録災害ボランティアコーディネーター発足！ メンバー構成 (19名が賛同) 	※一般公募・民生委員・社協理事 ・一般ボランティア・ボランティアグループ代表らに声を掛けた。 ※これまで一般を対象に声を掛け、コーディネーターの養成を開催してきたが、定着ならず。有事の時に困難をきたすと考え、職員らと相談して町のキーパーソンになる方を人選し、大和町立ち上げ訓練終了後のバスの中で声を掛け、参加者全員の了解を得た。 ※この日を境にセツ浜町社会福祉協議会の平常時の活動が大きく前進した。また職員と登録コーディネーターとの合同災害ボランティアコーディネーター研修会も開催し、職場が違う職員との意思疎通も図った。
(平成 19 年) 2007.1.17	災害ボランティアコーディネーター研修会 於) セツ浜町中央公民館	参加者: 人選メンバー19名 社協職員も参加
2007.10.10	災害ボランティアセンター 立ち上げ訓練 於) 中央公民館敷地/吉田浜、菖蒲田浜サテライト 参加者: 町民 100 名、県派遣職員 100 名、 地方社協スタッフ、役場職員、 宮城レスキューサポート・バイクネットワーク(以降、MRB) 合計 200 名以上参加	※皆が進める研修会・訓練の開始 

<p>(平成 19 年)</p> <p>2007.8.21</p> <p>9.28</p> <p>10.2</p> <p>10.10</p> <p>11.7</p>	<p>訓練のためのスタッフ会議開催 (計5回)</p> <p>登録スタッフ顔合わせ</p> <p>担当決め・準備・打ち合わせ</p> <p>最終打ち合わせ ※役場職員も参加し、意識の共有を図った</p> <p>(役場職員・他社協職員・協力スタッフ会議) 午前中 最終打ち合わせ</p> <p>反省会</p> <p>※各担当が運営側、ボランティア側になり訓練、町役場職員は「防災対策室」を自から立ち上げ、訓練に参加した。また、県派遣職員も40名参加した。</p> <p>◎今回の立ち上げ訓練の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去3年間の地域住民への啓蒙 ・登録スタッフの育成 ・人材育成・養成(机上から実践への1歩) ・地域防災会の協力 ・現地調査・サテライト(吉田浜地区)の立ち上げ(ニーズ班)の実践(MRBの協力) ・行政との積極的な連携 <p>※町民の皆さんと一緒に作る訓練をめざした。</p>	  
<p>(平成 22 年)</p> <p>2010.2.23</p>	<p>七ヶ浜町災害ボランティア・シンポジウム</p> <p>「被災から復興までの道のり」</p> <p>於) 七ヶ浜町中央公民館(大会議室 13:30～)</p> 	<p>○シンポジスト</p> <p>栗原市耕英住宅行政区長 金沢大樹 氏</p> <p>花山復興の会「がんばっぺ」 事務局長 伊藤 廣司 コーディネーター 星真由美</p> <p>参加人数 200名</p>
<p>2010.6.16</p> <p>6.22</p>	<p>平成 22 年 災害ボランティアコーディネーター養成研修会 (計3回)</p> <p>於) 七ヶ浜町社会福祉協議会</p> <p>講義 仙台市ボランティアセンター 早坂敏氏</p> <p>災害ボランティアセンターの各班の役目</p> <p>講師: 登録コーディネーター</p>	<p>※登録スタッフを中心に企画し開催した。</p> <p>新規申し込み者が7名参加した。 (関連資料を、資料編に収録)</p>

- 6.29 ミニ災害ボランティアセンター立ち上げ訓練
アドバイザー 仙台市ボランティアセンター
早坂敏氏



災害ボランティア コーディネーター養成研修会

災害ボランティアコーディネーターとは？
災害発生時に社会福祉協議会は
災害ボランティアセンターを立ち上げ、
ボランティアを受け入れる役割があります。
ボランティアが幅広く活動できるように、被災者・地
域住民・行政・ボランティア各的に関わりつなげる役割
がコーディネーターです。



開催日時	内容
1日目 6月16日(水)	講師：災害ボランティアセンターとは 「コーディネーターの役割」 講師：仙台市ボランティアセンター 早坂敏氏
2日目 6月22日(火)	講師：災害ボランティアセンターの各種の役割 講師：セキヤク和豊福祉協議会災害ボランティアコーディネーター
3日目 6月29日(水)	実践：ミニ災害ボランティアセンター立ち上げ訓練 アドバイザー：仙台市ボランティアセンター 早坂敏氏



◆場所 セキヤク社会福祉協議会 テイルーム
住所 刈尾台7丁目-8-153
電話 349-7781 FAX349-7782
◆時間 10時～11時45分
◆参加費 無料
◆申し込み締め切り日 6月14日(月)

◆地域福祉に沿った町民への災害への啓蒙活動

- ① 一人ぐらしの高齢者へ「お誕生日プレゼント」として非常持ち出し袋・非常食セットを配布
- ② 町防災訓練へブースとして参加した株式会社ゼンリンの地図ソフトを購入。町民へ災害ボランティアセンターや災害ボランティアの存在を知らせた。
- ③ 町内小中学校合同夏休み開放講座（ジョイント5）にて、子供防災教室を開催。
- ④ 防災グッズ転倒防止器具の啓蒙・施設での設置

※この訓練を最後にし、平成23（2011）年度の平常時の活動をどうしたらいいかと思案している最中の東日本大震災であった。



非常袋・非常食の配布

<セキヤク社会福祉協議会 星 真由美>



松ヶ浜地区防災訓練にて



家具転倒防止器具設置の啓蒙活動

2.2 センター立ち上げを支えた若い力

2.2.1 ボランティア1号 あらわる！

平成23(2011)年3月11日の東日本大震災発災時、職員は社会福祉協議会事務所(以下、社協)にて避難住民の世話、対応に追われていた。

3月13日、災害ボランティアセンターが社協事務所に立ち上がった。ダイルームをボランティアの受付や待機所、オリエンテーションに使用。事務所内でニーズを受付けた。

まず、前日から社協に避難していた私(星真由美)の子供をはじめ、関係者の子供たちがボランティアの第1号となった。障害者地域活動支援センター「あさひ園」でも、支援員の子がボランティアとして奔走していた。

彼女らは春休み中であったため、七ヶ浜町内の同級生らに声を掛けた。その中には、すでに社協事務所に避難していた高校生や大学生もおり、平成20(2008)年に発生した岩手・宮城内陸地震において父親が行方不明になった高校生も含まれていた。

彼らは、率先して物資の配布やボランティア受付関連の情報を掲示し、また、役場の前に開設された「給水所」への汲み出しをするなど、職員の活動を助けた。小学生までもが、お茶を出したり清掃をしたりと奮闘した。

友達の輪がしだいに広がり、兄弟姉妹からさらにその友人へと、町内の若者達が30名以上集まるようになった。



2.2.2 発災から「すぱ一く七ヶ浜」への移転まで

3月13日社協事務所に開設されたボランティアセンターは、19日に屋内運動施設「すぱ一く七ヶ浜」に移転し活動を再開する。発災3日目の開所から移転までの、初期1週間のボランティアの活躍を記録しておく。

●給水活動班(役場からの依頼)

給水にくる被災者の車の誘導や、給水の補助などを行った。発災直後に役場の駐車場に配備された給水車は、すぐにNPO法人アクアゆめクラブ(以下、ゆめクラブ)管理棟脇へ移動したが、寒さの中で水を扱うなど、過酷な作業でもあった。

この活動は、ゆめクラブ管理棟駐車場から地区給水ポイントへと給水場が移動するまで続き、毎日、高校生や大学生の男子学生が20名から30名派遣された。また「給水にいかせてください!」と熱願する中学生男子もいて、若者達の活躍は心を打つものだった。活動者のチームは結束も強く、そのつながりは平成25(2013)年の今でも続いている。

●救援物資搬入班（役場からの依頼）

続々と届く救援物資を整理し、分配、管理する作業に、男子を中心に 20 名から 40 名を派遣した。物資の集積場所は、中央公民館に隣接する屋内運動施設「すぱーく七ヶ浜」で、この後、ボランティアセンターはこの施設に移動が決定した。

●センター本部運営班

女子たちは新しいボランティアセンターへの移動に伴い、掲示物作成等を担当した。「本部」と筆字で模造紙大に書いた掲示物は、ボランティアセンターが公民館内へ移動する平成 24（2012）年 11 月まで貼り出されていた。

2.2.3 地元の若者たちが支えた本格的な活動

準備に追われながらも、ついに七ヶ浜町災害ボランティアセンターは、3 月 19 日に「すぱーく七ヶ浜」内に移転した。

学校が被災し、部活もできない七ヶ浜中学校の生徒が多数活動に参加した、彼らは当初、積極的に行動するまで時間がかかったが、活動を重ねるたびに目覚ましく自主性を発揮し、学校が始まる直前まで、率先して活動にあたった。

彼らが活動した内容を以下に記す

- ・ 中央公民館避難所の清掃
- ・ 避難所隣接仮設トイレの清掃
- ・ ボラセン・近隣のゴミ拾い
- ・ 電話の対応
- ・ ボランティアの受付



掲示物を手書きする地元中高生たち



避難所前に設置された仮設トイレの清掃は工夫を凝らし、美化に勤めた。

2.2.4 物資仕訳班からフリーマーケット班へ

全国から寄せられる支援・救援物資は、保管場所の天井に届く勢いで、いくら仕訳しても一向に減らない状況だった。

新品衣類が山のようにあり、配分できない状態が続く中、若い仕訳班リーダーである松浦結さんが案じて主体となり、ボランティアセンターのスタッフ、仕訳班ボランティア、町担当職員らと相談・協議して、フリーマーケットを開催した。

初期のフリーマーケットは、障害者支援施設である「あさひ園」の駐車場や、文化交流施設「七ヶ浜国際村」の避難所で開催した。国際村では、利府町ボランティア友の会に協力していただいた。

ボランティアセンター前の広場で開催するフリーマーケットは、曜日を設定して定期的に行われ、平成23年6月まで続いた。ボラセン前広場で開催する時には、11時からのオープンにもかかわらず、8時ころから列ができることも多く、列に並ぶ方達のために、マッサージのボランティアも活躍した。



フリーマーケットでは支援物資を無料で分配し、募金形式とした。集められた募金は町に寄付された。



ボラセン前広場で行われたフリーマーケットは、避難住民を対象の中心として行われた。

《トピックス》 利府町社会福祉協議会・利府町ボランティア友の会の功績

国際村にて行われたフリーマーケットは、ボランティアセンター前の広場に来ることができない方たちにとって、大変ありがたい支援だった。利府町友の会が準備したワゴン・移動式ハンガーかけ等は、その後もフリーマーケットで活躍したのはもちろん、2012年末まで借用し、一日何百枚と洗濯が必要なビブス干しにも多いに利用された。



国際村でのフリーマーケットの様子

2.3 セブシマ町ボランティアセンターはこんなところ

2.3.1 「すぱーくセブシマ」に設置された災害ボランティアセンター

セブシマ町災害ボランティアセンターは平成 23(2011)年 3 月 13 日、社会福祉協議会の会議室デイルームをセンター事務所として急遽開設された。発災 3 日後であった。

ここもやはり一時避難の方が身を寄せていた場所であった。

その 6 日後の 3 月 19 日、屋内ゲートボール場「すぱーくセブシマ」を町から借り受けてセンターを移設、本格的な活動拠点とした。この施設の借り受けは、かねて町と社協の間でボランティアセンター立ち上げの覚書を交わしていた事によるものである。役場地域福祉課によって「すぱーくセブシマ」を提供いただいたことは、後々のボランティア活動展開にとって実にありがたい事であった。

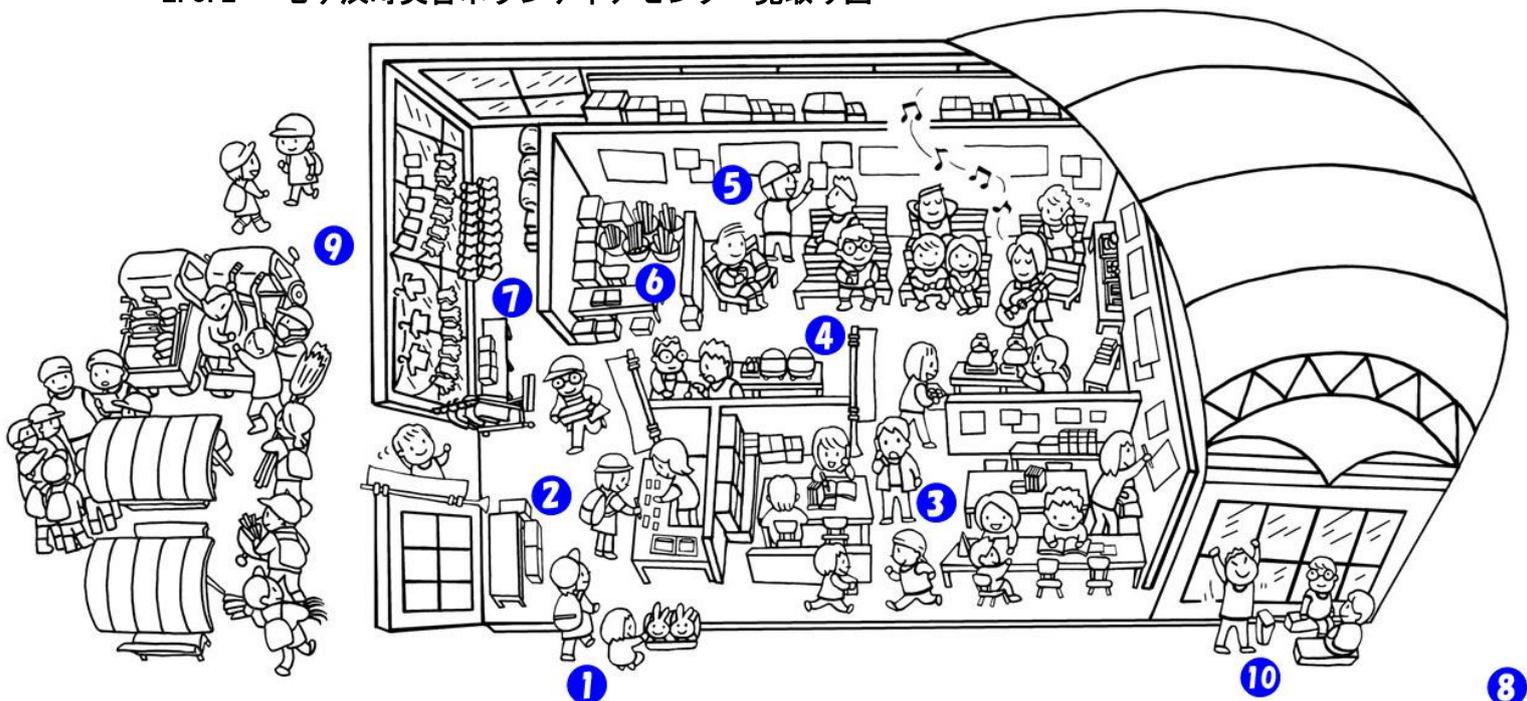


ボランティアセンター入り口(すぱーくセブシマ)。天候を気にせず利用することができた(2011年6月頃)。



ボランティア全体朝礼で挨拶する渡邊町長 (2011年4月10日)。

2.3.2 セブシマ町災害ボランティアセンター見取り図



illustrated by (きずな工房: 阿部美紀)



① 受付

毎朝、「七ヶ浜婦人と暮らしを考える会」、「ボランティア友の会」の皆さんにより個人・団体別に受付、保険確認、ビブス、ネームテープの貼り付けなど、活動の朝が始まる。

② 飲料水用意所



③ センター事務所 電話・ニーズの受付・諸帳簿事務作業など

ニーズの受付・作業の計画・諸事務作業など活動の中心となる場所。スタッフ打ち合わせや、リーダーの為のマッチング前の確認事項打ち合わせなどに利用される(写真はスタッフ・リーダー会議の風景)。



④ マッチングボード・作業終了報告所

ボードに本日の作業を貼り出しマッチング。七ヶ浜のボラセンでは、前日に団体ボランティアの作業現場をあらかじめ割り当ててスムーズな進めとした。朝のマッチングはボランティアリーダーに進行を任せるようになっていった。現場への出発前には、班リーダーが細やかな作業手順・注意事項、安全確保のためのミーティングを班ごとに実施した。

○ 使用する器材・道具の準備はマッチング前のリーダーミーティングで計画される

当日の作業段取りや、現場ごとの資器材の割り振りなどが確認される。



⑤ 各種インフォメーション、写真のパネル表示

ボランティア待機所の壁面には、各種の注意事項などのポスターや作業手順(がれきの分別など)、連絡事項を掲示。また被害状況の写真と共にこれまでのボランティア活動の様子などの写真をパネルで掲示してその活動意義を理解しやすくした。



⑥ 資器材の管理センター

ゴム手袋や長靴などは毎日洗浄し、清潔を確保。すぐに使えるようサイズごとに並べられている。



⑦ 整然と整理された洗浄済みの手袋・長靴

○ 資器材の持ち出しは管理票で

必要な時に必要な道具や機材を用意する。持ち出し・返却は持ち出し票で行われる。作業に必要な分の資器材の調達がスムーズに準備される体制ができている。



⑧ 外部資材置き場

資材管理はかなり徹底しており、常に手入れされた状態を維持している。ボランティアの二階堂氏がほぼ専従してあたってくれた。



⑨ ウェブ室

情報発信、ボランティアの募集、不足物資の提供依頼等、活動の広報センター。



⑩ 自転車置き場

支援頂いた自転車は修理ボランティアによってメンテナンスされている。



⑪ 外の喫煙所

活動終了して一服。被災各地での活動状況など仲間同士の情報交換場所でもある。

2.3.3 ボランティアセンターの立地・施設の充実

ボランティアセンターは非常に恵まれた場所に設置された。

七ヶ浜は町の東西4km余、南北3km余りの面積の小さな町。ボランティアセンターは町のほぼ中央に位置しているため、町内移動が極めて容易である。徒歩で現場に到達することもできた。狭い範囲の中での活動は、全体が把握しやすく「よく見える」ため、能率的に作業を進めることが出来た。

また、七ヶ浜町は国道・鉄道こそ通っていないが、仙台市の中心からわずかに20km弱の距離であることが7万人超のボランティアが入りやすかった理由の一つであろう。

2.3.4 全天候型ドームの「すぱーく七ヶ浜」

屋内施設は風雨や雪を気にすることなく利用することができた。また、最大300人程度のボランティアが一堂に会することができる内部は、十分な広さである。さらに500人超のボランティアが集合する際には、正面の外にあるグラウンドを利用した。

「すぱーく」はボランティアの集会所であると同時に、昼は大食堂（昼には作業現場からセンターに戻って昼食をとることとしていた）、またある時はコンサートホールにもなった。

施設の周囲には十分な駐車スペース、トイレや水道など活動をサポートする設備が整っているなど、じつに恵まれた環境である。さらに長期ボランティアにとっては町営キャンプ場が隣接していることがありがたかった。



多目的に利用された「すぱーく七ヶ浜」



活動前のウォーミングアップ「おらほのラジオ体操」

2.3.5 名称の変更と移転

七ヶ浜町災害ボランティアセンターは、平成23年3月13日、社会福祉協議会の会議室で開設され、6日後の3月19日に「すぱーく七ヶ浜」に移動して本格的な活動を開始した。

当初は、災害復旧系の作業が活動の中心であったが、発災から1年が経過し、徐々に生活支援に軸足を置いた活動が中心となってきた。

これに伴い、平成24年3月11日、ボランティアセンターの呼称を「七ヶ浜町災害ボランティアセンター」から「浜を元気に！七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター」へ変更。

また、1年9か月間活動の拠点としてきた「すぱーく七ヶ浜」が改修工事に入ることもあり、平成24年11月23日には、隣接する七ヶ浜町中央公民館の施設「いろりの家」に移転することになった。

2.4 ボランティアセンターに対する多くの支援

2.4.1 発災直後の物資調達

地震と津波の被害後、早期にボランティアセンターが設置されたものの、活動に必要な資機材はもちろん十分ではなかった。すぐに動いたのは社会福祉協議会（以下、社協）の渡邊信男次長であった。海岸部は被災。沿岸部である利府町の社協も被災している。そこで、まずは内陸部からと考えて回った。

発災 5 日目となる平成 23（2011）年 3 月 15 日、道路状況の大変な中で資材を集めた。富谷・大和町の社協からは、手袋、ホーキの支援を頂いた。大和町社協職員の方からは、食事も大変だろうとご飯をいただいた。また、大和町の金物屋で竹ホーキ、デッキブラシ、スコップ、マスク、軍手・厚手のゴム手袋などの入手できる資材を可能な限り購入した。

2.4.2 全国からの物資到着、および必要な資器材の調達

全国の善意が支援物資として大量に届いた。

初期の活動に際し、ニーズに対応する機動力の不足がおおいに課題となった。すなわち作業現場に道具を届けられない、また人員を輸送できないなどである（個人所有の車を動員しても尚、である）。

運搬用車両確保の必要性が上がった時期、その声に呼応するように個人篤志家が提供を申し出てくれた。また、支援 NPO 団体・レスキューストックヤードから融通されたトラックも加わり、対応機動力が飛躍的に高まった。

日を追って支援の物資が多くなってきたが、さらに広く援助をいただくようインターネットを活用することとした。Amazon.co.jp（以下、アマゾン）では、被災地が必要とするものをみずからリスト化し、支援を希望する方々がその商品を購入して送り届けるという、「東日本を応援 ほしい物リスト」というサービスを開始していた。平成 23 年 5 月以降、このサービスを利用することにより、必要とする多くの資器材が迅速に調達できるようになった。特に土のう袋や飲料水など、消耗品については多くの支援をいただいた。



全国から届けられた支援物資（資器材）



土のう袋などの消耗品

なお、車検やメンテナンスを必要とする車両などについては、その提供者にお願いすることとして、甘えさせていただいた。皆様快諾の上、ボランティアセンターにご提供いただいたことに対し、ここで改めて感謝するものである。以下、支援いただいた大型機材などを上げる。

◆車両等の大型支援器材の内訳

提供機材	種類	提供者
物資運搬用車両	2tトラック・・・・・・・・・・2台	NPO 経由日本財団
	2t ダンプ・・・・・・・・・・1台	NPO 経由日本財団
	ワンボックスカー・・・・・・・・2台	個人篤志家 個人篤志家
人員搬送用車両	8人乗りワゴン・・・・・・・・1台	七ヶ浜社協保有車
	5人乗りワゴン・・・・・・・・1台	個人篤志家
	4人乗りワゴン・・・・・・・・1台	個人篤志家
土木作業用重機	ユンボ	個人篤志家
重量物運搬用	小型キャタピラー車	個人篤志家

(2013年8月現在)



支援車両(2013年10月)



支援飲料水(2013年7月)

2.4.3 瓦礫撤去用等、屋外作業用支援物資の内訳

月が変わり、平成23(2011)年4月になると県内外の個人、企業・各種団体からボランティアセンターにたくさんの物資の提供があった。

そんな中で、瓦礫撤去用だけに限らず、屋外の作業に伴う粉じん用のマスク・ゴーグル等は本当に必要であり、有効に活用された。そのほか、作業用衣類、農耕用具、園芸資材、園芸用品、研磨用品、電動工具などが提供された。

具体的な支援物資は、以下の通りである。

兼次片手備中鋏、 ゴールデンスタースチールレーキ(12本爪)、 鋏新型アルミ柄エッジ太枝切鋏、 草刈り用チップソー2枚組、 三条フジ木柄スコップ剣(丸)型、 ゴールデンスター 木の間レーキ、 ステンレス草刈り鎌 180mm、 園芸腰鉈両刃 165mm、 など。

2.4.4 土のう袋等の提供の呼びかけと受け入れ

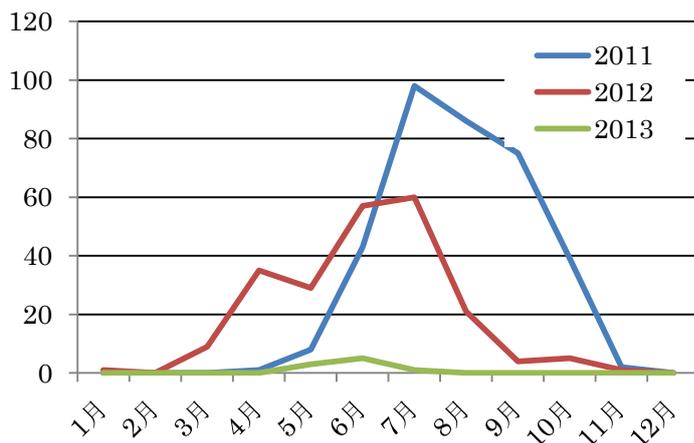
個人宅の細かい瓦礫、掃除等で土のう袋がたくさん必要になり、ボランティアセンターでは、ホームページやアマゾンの「ほしいものリスト」サービスなどで土のう袋の提供を広く呼びかけた。その結果、ボランティアの個人や団体が直接ボランティアセンターに持参してくれたり、県内外よりトラック便で届けられたりするようになった。その数が大量におよんだため、一時、募集する土のう袋の枚数を制限したほどである。さすがにインターネットの威力にはすさまじいものがある。

おかげで、土のう袋や飲料水の類は潤沢に確保できるようになった。資材の置き場所については、ボランティアセンターが屋外運動場である「すぱーくセヶ浜」を利用していたこともあり、十分に確保することができた。

◆土のう袋・ガラ袋等の支援受け入れ

・土のう袋 (月別受け入れ件数)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
2011	0	0	0	1	8	43	98	86	75	39	2	0	352件
2012	1	0	9	35	29	57	61	21	4	5	1	0	223件
2013	0	0	0	0	3	5	1	0	0	0	0	0	9件



・土のう袋

(年度別受け入れ総枚数)

2011年	127,803枚
2012年	84,568枚
2013年	13,160枚

土のう袋・受け入れ件数の推移

・ガラ袋

受け入れ総件数 計 28 件 (11年5月～12年10月)

受け入れ総枚数 計 1,951 枚

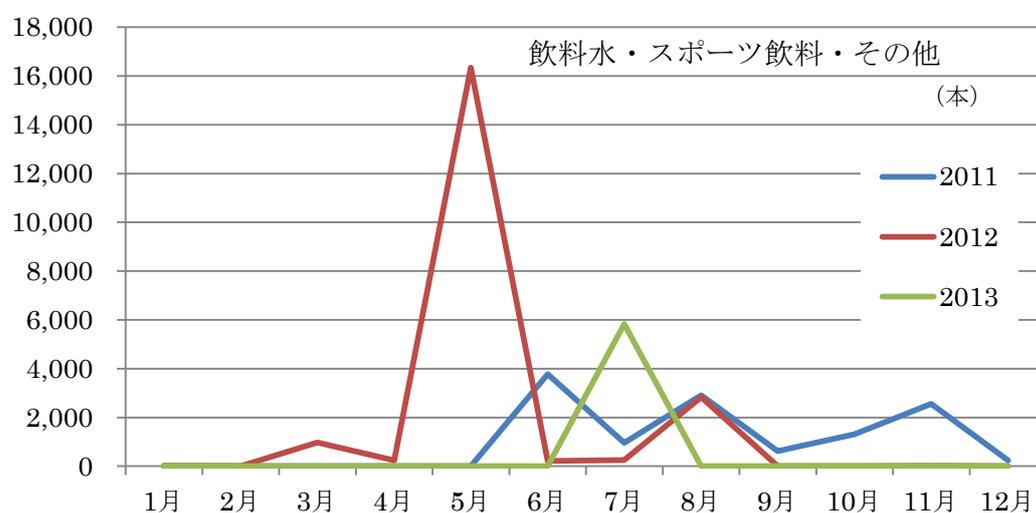
2.4.5 飲料等の提供と受け入れ

夏の強い日差しの中での作業では、熱中症に最大の注意を払った。幸い全国から飲料水、お茶、スポーツドリンク等の提供が相次ぎ、多くのボランティアに無料で必要な飲料を十分に提供することができた。

◆飲料水・お茶・スポーツ飲料等の支援受け入れ

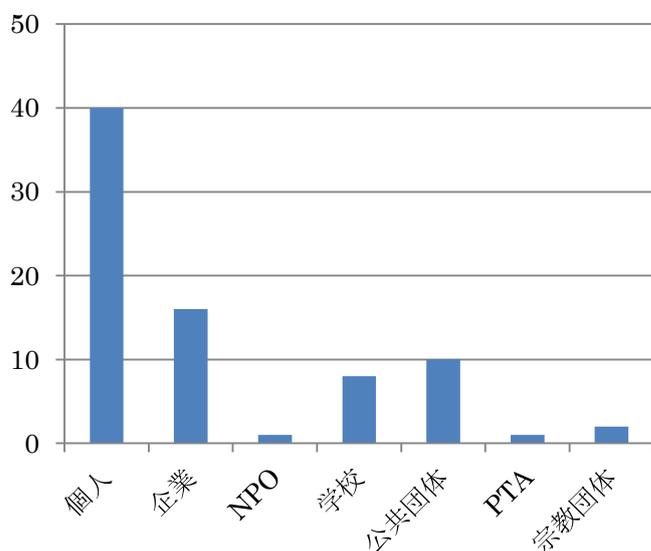
・飲料(年度別受入件数と総本数)

2011年	75件	12,404本
2012年	53件	20,845本
2013年	2件	5,824本



2.4.6 寄付金の受け入れ

◆寄付金(個人・団体別の件数)



今回の大震災に際し、県内はもとより、全国の多くの皆様から、あたたかいご支援や励ましのメッセージ、ご寄付の申し出があった。当ボランティアセンターに対する、個人、企業、NPO 団体、学校、PTA、宗教団体などから寄せられたご寄付の件数は、合計 78 件にのぼった。

あらためて、深く感謝いたします。

2.4.7 支援物資一覧 (2011.3~2013.12)

品目	点数
土のう袋	227,181
飲食物	46,116
衛生用品	6,606
タオル	6,311
作業用品	4,436
衣類	2,287
日用品	2,152
ガラ袋	1,951
娯楽・玩具・スポーツ用品	543
文具・事務用品	518
農耕用具	508
防犯グッズ	400
医薬品	375
園芸用品	370
備品	81
掃除用品	80
工具	67
寝具	52
その他	50
油類	49
カセットボンベ	42
家電・デジタル製品・記録メディア	42
土木用品	39
駆除用品	37
自転車	27
手芸用品	21
テント	21
健康機器	13
保冷用品	9
ペット用品	8
車両	1
寄付金	78

※ 寄付金は件数です。

※ 本グラフはボランティアセンター内のノートをもとに集計しました。数量不明の寄付についてはカウントしていません。

2.4.8 資器材の管理

七ヶ浜町ボランティアセンターの際立って優れた点として、「資器材の管理」を挙げることができる。「安心して作業が継続できるように！」との思いから、資器材の管理は徹底された。

あえて個人名を記す許しを得るなら、町民ボランティアの二階堂修氏の管理手腕である。

資器材の持ち出しには伝票記入の手続きが必要で、時に面倒とされる場面もあったが、この点が活動を支える非常に重要な役割であったことは、皆の認めるところである。さらに特筆すべきは、瓦礫撤去用資材のメンテナンス、修理修繕、さらには使用後のゴム手袋の洗浄からサイズごとの長靴の管理までが、完璧に行われた。本来、ボランティア活動にはゴム手・長靴は必携品とされてい



町民ボランティア 二階堂修氏。資器材の管理を一手に担った。



毎日使用する作業道具は雨をさけ、軒下に格納した。

備品持ち出し申請書 (屋内管理用)

日 時: 23年 6月 17日 (金) 時 分

班名/個人名: 上野

活動先:

貸出物品		貸出物品	
物品名	個数	物品名	個数
1 パール(大) ☆	3	13 火ばさみ ☆	
2 パール(小) ☆	5	14 懐中電灯	
3 かなづち	3+2	15 作業服(上)	
4 ハシマー(大)	2	16 作業服(下)	
5 ハシマー(小)		17 レインコート	
6 のこぎり	2	18 雑巾	
7 レンチ		19 イレバット	2
8 ワイヤークッター		20 キタット	1
9 ドライバー	① ④ ⑤	21 2Rキタット	1
10 せんでいばさみ		22 4Eキタット	1
11 園芸用シャベル ☆		23 スクレーパー	1
12 熊手(小)		24 靴	

細かい作業道具もこの伝票で管理した

るのだが、実際には準備せずに活動に来られるボランティアもいる。当センターで貸し出した用具により、気持ちよく作業ができたのではなかろうか。

当ボランティアセンターの運営は、組織的に統制がとれていたとの評価をいただくことがあるが、それは資器材の管理に負うことが甚大である。

2.4.9 災害ガレキ系作業の終息と余剰資器材

復旧作業が一定の段階をむかえ、活動が終息に向かいつつある時期に、資器材の整理が求められることとなった。全国の多くの個人や企業・団体からいただいた支援資器材を友好に活用させていただくために、今後、当ボランティアセンターでは余剰となるであろう資器材を各所に有効に分配することとした。

まず、ボランティアセンターが今後の活動に必要な分を確保、次に必要な数量を、町役場の各部署、学校などの公共施設、さらに、町内各地域の順で割り振った。その具体的な分配先は、資料編に「作業資材振り分け表」として掲載している。

最後に、他市町村の社協も利用できるよう資器材を一括管理する宮城県社協の倉庫へ移譲して、平成25(2013)年11月、整理が終了した。

2.5 情報の発信と支援物資の受け入れ・活用

2.5.1 実録！ ブログから読み取る支援物資の活躍

七ヶ浜町災害ボランティアセンターでは、平成 23 (2011) 年 3 月より、「すぱーく七ヶ浜」のクラブハウスをお借りし、Web ルームを開設。ここから、FAX、メール等で県社協や支援者等と情報を交換した。また、公式ホームページや公式ブログを開設して逐次更新することにより、当ボランティアセンターの活動を広く全国に発信した。もちろん Web ルームの日常業務も、ボランティアによって行われた。

また、ホームページやブログの記事とともに、Amazon.co.jp (以下、アマゾン) の「東日本を応援 ほしい物リスト」(以降、「ほしい物リスト」) 等のサービスを利用して、必要な資機材の支援を全国にお願いし、迅速なる支援を受けることができた。

以降は、おもにブログの記事を再掲載しながら、支援物資が全国から寄せられる様子を振り返ってみることにする(なお、できるだけ忠実に採録していますが、報告書掲載に合わせ、小見出しの新設にくわえ、文言等を読みやすいように多少変更しています)。

<ブログより>

・プロジェクターとシュレッダーが届きました！



シュレッダー

アマゾンの「ほしい物リスト」で寄付をしてくれる方が次々と現れ、ボランティアセンターのスタッフも嬉しい驚きでいっぱいです！ まず虫ネットやスプレーなど。この季節には重宝です。そしてもちろん虫に刺された後などの応急セットも。



会議やサロン活動・広報活動で活躍したプロジェクター

さらに極めつけは……。プロジェクターとシュレッダー！

(2011 年 6 月 12 日)

6 月に入ると午前 10 時ですでに 28°C の気温となる日が続き、津波で何もかもが流されてしまった現場では、防風林の松並木以外日差しを防ぐのが何も無い中での作業が続いた。炎天下での水分補給はもちろんのこと、塩分の補給も必要になり、飲料水のほかに、塩飴も「ほしい物リスト」入りとなる。

また、津波で被害を受けた地域の清掃活動(瓦礫撤去等)にガラ袋、流出地域敷地内清掃時の雑草除去に刈払機、松林の整備に鉋、側溝清掃、浜清掃、個人宅の清掃にスコップなどが必要となり、7~9 月の「ほしい物リスト」に掲載し、支援を仰ぐことになった。

<ブログより>

・土のう袋が届きました！

送っていただいた方、無事に届きましたよ～。
パッと見、なんじゃこりゃ?? でしたが、土の
う袋4セットでした。(2011年6月15日)



・(御礼) レーキが届きました

アマゾン「ほしいものリ
スト」に掲載していたレー
キが届きました！ 皆様
から道具をご支援いた
だく事により、ガレキ撤去の
作業も効率よく進めてい
くことができます。本当に
ありがとうございました！



泥かき出しをしていると、時には下に石やブロッ
ク塀等があつてこのようにポッキリ折れてしまうこ
ともあるんです。



今日は曇り空から時折雨がパラつくセヶ浜町。気
温は23℃ですが湿度が高くもわ～っとする天気です。
床板はがしやヘドロのかき出しに、ボランティ
アの皆さん
汗をぬぐいながらの作業になりました。



ヘドロの下になっていた床板は水分を含んでズッ
シリ重い……。頼もしき男性陣3～4人掛かりでの
作業です。



すべてのガレキを撤去するにはまだまだ
時間を要します。

今後とも皆様からのあたたかいご支援、
よろしくお願い致します！

(2011年6月28日)

さらに、クーラーボックス（仮設住宅の集会所には冷蔵庫がないので、夏場に冷蔵庫の代わりに氷を保存）、ブログ更新用のSDカード、チェーンソーのオイル（海岸に流れ着いた流木や倒木の処理用）、注射器型吸引器（夏の屋外作業での蜂、蚊等の毒虫被害対策として、毒液・毒針を除去する）なども「ほしい物リスト」に掲載させてもらった。

<ブログより>

・チェーンソーをお願いします

東日本大震災以前、白砂青松の美しい海浜があった七ヶ浜町。松並木は景観のみならず、防災林としての役割もありました。しかし、津波をかぶってしまった松たち、赤く変色して潮枯れしたものが目立つようになってしまいました。



枯れて浜や道端に倒れてしまっている松の木も多いために伐採・切断して運び出す必要がありますが樹齢の経った木はこのぎりではなかなか切断ができません。

そのため、アマゾン「ほしい物リスト」にチェーンソーを追加しました。

どうか、皆様のあたたかいご支援を賜れば幸いです。（2011年6月23日）

平成23（2011）年7月、代々崎浜地区では地盤沈下の影響もあり、大潮の間はおよそ30センチの深さまで冠水していた。側溝を清掃していた海岸通りは4日間も水没し、浸水時には高潮注意のコーンを各所に設置していた。この側溝の泥出しで少しでも浸水が緩和されればと願った。側溝の蓋締め道具、キャッチリフターも送られてきた。蓋をこじ開けると、中には分厚い泥の層がびっしり埋まっていた。



12日には泥だし作業を行った。掃き掃除をして終了、蓋閉めの道具も大活躍であった。

<ブログより>

・支援物資が届きました！

ボランティアセンターに支援物資が続々と届いています！お送りいただいた皆さま、本当にありがとうございます。ここで、先日届いた物資の一部をご紹介します。アマゾンの「ほしい物リスト」でお願いしていた特大型トロ舟です。さっそく、外作業で汚れた長靴などを洗うために使わせていただいています。（2011年11月16日）



9月になると、ワイヤープランツ・寒椿・ミツバツツジ等の植物が新たに「ほしい物リスト」に追加され、津波に流された公園の再生プロジェクトに利用された。

11月には再び瓦礫を入れるガラ袋・土のう袋が不足。容量が1tの土のう袋では重すぎて運搬が困難なため、一般サイズの土のう袋の提供をお願いした。

また、マルコメ株式会社様からは、味噌汁マシンの提供もあった。寒い時の味噌汁は身も心もしみじみと温まり、ボランティアにとっても好評であった。

<ブログより>

・マルコメさんからプレゼント！



マルコメさんから味噌汁マシンを提供いただきました。週刊ポストの広告にこのマシンの店舗モニター募集広告を発見。手紙書いて申し込んだらなんとマルコメさんから特別枠でボラセンに！ありがとうございます。あったかい味噌汁に行列ができました。



(2011年12月17日)

最後に、やはりブログに掲載した御礼の文章をもって、重ねて多大なる支援への感謝を申し上げます。

・支援の御礼

「今朝も、支援物資が届きましたので、そのお礼も込めまして、今まで支援していただきました多くの皆様にこの場をお借りして感謝の言葉を申し上げます。

実際に現地で作業されていますボランティアさん達だけではなく、全国各地より後方支援として多くの支援物資を送って下さる皆様からも支えられて、七ヶ浜町災害ボランティアセンターは本日まで活動を行うことができしております。

これからも七ヶ浜町災害ボランティアセンターは活動を継続していきますので、皆様の支援の程宜しくお願い致します。」

(2011年7月29日ブログより)

<七ヶ浜町社会福祉協議会 柴田信敏 竹中昇子>

<MEMO>